

交通事故撲滅に向けて

7月17日から26日までの夏の交通安全期間中、ドライバーや歩行者に対し、事故撲滅に向けての取り組みが行われました。

7月17日に追分柏が丘の国道234号でセーフティコールが実施され、交通安全母の



追分地区の国道で実施されたセーフティコール (7月17日)



ぬくもりセンターで開催された高齢者交通安全教室 (7月21日)

会の皆さんや地元企業の従業員など40名ほどが参加。往來する車両にスピードの出し過ぎ注意やシートベルトの着用を書いた旗を振って安全運転を呼びかけ、また、各地区では交通安全教室が開かれ、死亡事故の実態や道路交通法改正が報告されました。

この時期は学校の休みや行楽などで事故が多発します。車を運転する人は子どもの急な飛び出しなどに注意し、長時間運転する場合は十分な休養をとるように心がけましょう。

笑顔あふれる時間

7月17日遠浅小学校で地域に住むお年寄りとのふれい交流会が行なわれました。

幼少時代の食べ物や遊びなどについて児童が質問したり、将棋やかるた、あやとりなどで交流を深めました。

参加したお年寄りの方は、「毎年運動会や学芸会のお誘いが楽しみの一つで子どもたちから元気をもらっています。1年生と手を繋いで歩いたことがとても嬉しかった」と話していました。



プランターの販売益を社会福祉協議会に寄付

陸上自衛隊安平駐屯地が7月16日に安平町社会福祉協議会を訪れ「社会福祉に役立ててください」と『あひら夏！うまかまつり』会場で販売した木製プランターの収益金を社会福祉協議会に寄付しました。

「今年は好天に恵まれ、また有名人の出演で町外からも多くの方が来ました。おかげで手作りのプランターの売れ行きも好調でした」と関係者は言います。

社会福祉協議会では善意の志に感謝していました。